

## 学長定例記者会見要項

日 時: 令和5年12月7日(木) 11:00~11:45

場 所: 法人本部第一会議室(小白川キャンパス法人本部棟3階)

### 発表事項

- 1. 山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター ウズベキスタンからの社会人研修生受け 入れ~中小企業の経営改善・事業創出を支援する人材の育成~
- 2. 新酒・純米大吟醸「山形大学燦樹(きらめき)2024」完成〜山形大学オリジナル純米大吟醸酒、 12月14日より販売開始〜
- 3. 「山形五堰」が世界かんがい施設遺産に登録!~学生サークル「まちの記憶を残し隊」が山形市の清掃・PR 活動を支援~
- 4. 「ユネスコ フェイクニュース対応ハンドブック――SNS時代のジャーナリズム教育」明石書店 発刊のお知らせ-
- 5. 山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止について

### お知らせ

- 1. 山形大学学生チャレンジプロジェクト 山形リユースプロジェクト
- 2. 「YU-SDGs Award 2023」の受賞案件について~すべての活動を SDGs の枠組みにより empower!~
- 3. オペラ指揮者 阪哲朗氏による学生の公開レッスンを行います
- 4. 「ひらめき☆ときめきサイエンス:知的材料ってなに?」開催について

### (参考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時:令和6年1月11日(木)11:00~11:45

場所:法人本部第一会議室(小白川キャンパス法人本部棟3階)

### 学長定例記者会見(12月7日)発表

1. 山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター ウズベキスタンからの社会人研修生受け 入れ~中小企業の経営改善・事業創出を支援する人材の育成~

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター長

おのでら ただし 小野寺 忠司

2. 新酒・純米大吟醸「山形大学燦樹(きらめき)2024」完成〜山形大学オリジナル純米大吟醸酒、 12月14日より販売開始〜

農学部附属やまがたフィールド科学センター 技術専門職員 田中 健一 山形大学生活協同組合 農学部購買書籍店 店長 小島 憂也 奥羽自慢株式会社 製造責任者 阿部 龍 弥 地域教育文化学部 地域教育文化学科 児童教育コース 2 年 演野 空

3. 「山形五堰」が世界かんがい施設遺産に登録!〜学生サークル「まちの記憶を残し隊」が山形市の清掃・PR 活動を支援〜

人文社会科学部人文社会科学科2年 地域教育文化学部地域教育文化学科1年 人文社会科学部人文社会科学科3年

4. 「ユネスコ フェイクニュース対応ハンドブック――SNS時代のジャーナリズム教育」明石書店 発刊のお知らせ-

学術研究院 准教授(情報教育学)

かのう ひろこ 加納 寛子

5. 山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止について

 学
 長

 入試担当理事・副学長
 ままて、ひでとし エチ 英利でくち たけし 出口 毅

### PRESS RELEASE



令和 5年 (2023年) 12月 7日

## 山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター ウズベキスタンからの社会人研修生受け入れ ~中小企業の経営改善・事業創出を支援する人材の育成~

### 【本件のポイント】

- アントレプレナーシップ教育研究センターは、ウズベキスタン政府からの 依頼を受け、12月20日から25日の期間で、ウズベキスタンからの社会人 研修生24名を受け入れます。
- 同国の課題である雇用機会創出に必要な中小企業の経営改善および事業創出を支援する人材の育成のため、Agency for Working Mahallabay and the Development of Entrepreneurship(中小企業支援機関)所属の企業支援メンター等へのアントレプレナーシップ教育を実施します。
- 来年1月にアントレプレナーシップ教育研究センターの小野寺教授が ウズベキスタンを訪問し、今後の継続的な教育機会提供および将来的な センターの設置等に関する合意に向けて調整を行う予定です。



### 【概要】

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター(以下、「当センター」という)は、ウズベキスタン(以下、「同国」という)より、12 月 20 日から同 25 日の期間、同国の課題である雇用機会創出に必要な中小企業の経営改善および事業創出を支援する人材の育成に向け、Agency for Working Mahallabay and the Development of Entrepreneurship(以下、「同国中小企業支援機関」)所属の企業支援メンター 24 名を研修生として受け入れ、アントレプレナーシップ教育を実施する。

### (背景・目的)

ウズベキスタンは、人口が 3,600 万人で毎年 100 万人ほど増え、80 万人の若者が労働市場へ流入している。一方で、雇用機会が労働人口増に追い付かず、高い失業率 (10%程度) が国が取り組む優先課題となっている。この課題に対処するために、既存産業の収益力を高めることや起業を通じて雇用機会創出に努めており、この取り組みによる効果を高めるために、教育を通じて質の高い経営者を輩出することを目標としている。

この状況の中、同国労働省傘下の同国中小企業支援機関並びにビジネス開発銀行から、経営者並びに起業家育成について相談を受け、当センターで実績のあるアントレプレナー育成とリーンマネジメント手法が活用できることから同国からの研修生を受け入れる。

### (研修の主な内容)

- ・アントレプレナーシップに関する講義
- ・リーンマネジメントの基礎に関する講義
- ・県内企業訪問および県内企業経営者との交流
- ・県内企業での経営改善指導事例の紹介

#### (今後の予定)

来年1月に当センターの小野寺センター長がウズベキスタンを訪問し、今後の継続的な教育機会提供および将来的なセンターの設置等に関する合意に向けて調整を行う。

お問い合わせ

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター 菅生・齋藤 TEL 023-628-4075 メール yu-entre@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

### 【連携機関の概要】

OAgency for Working Mahallabay and the Development of Entrepreneurship

代表者 | Norboev Bakhtiyor Turaevich, Head of the Department for International Cooperation

所 在 地 | Gulsara Street 24, Tashkent, Uzbekistan

事業内容|ウズベキスタンにおける中小企業支援

○山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター

センター長 | 小野寺 忠司 (教授)

設立年月日 | 令和(2022) 4年4月 (令和5年4月から現センター名に変更)

所 在 地 | 山形市小白川町一丁目4番12号(小白川キャンパス人文社会科学部3号館8階)

事業内容|アントレプレナーシップ教育(大学生、社会人、企業人、団体、中高生)

企業向けリーダーシップ教育、新事業創出教育

アントレプレナーシップに関する社会・地域との連携



# Launch entrepreneurship journey on Uzbekistan & Yamagata University

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター センター長・教授 小野寺忠司

## ウズベキスタンの現状と課題



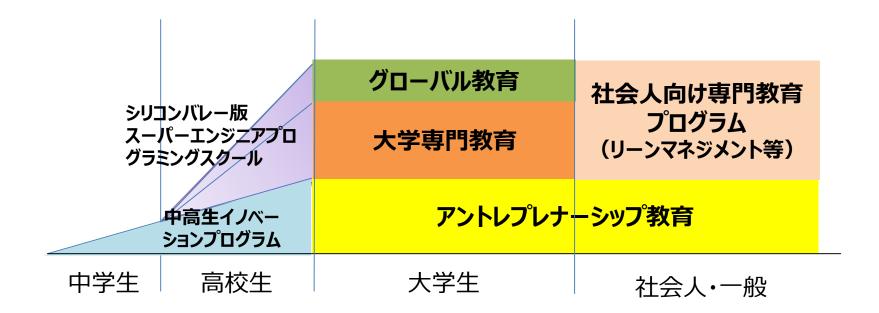
- 人口約3,520万人(2023年:国連人口基金)、毎年80万人の若者が労働市場へ流入
- 雇用機会が労働人口増に追い付かず高い失業率(10%程度)が継続
- 既存産業の収益性向上と起業を通じた雇用機会創出が国の重要課題
- 課題解決に向け、教育を通じた質の高い経営者、企業支援者の輩出を目指す



## アントレプレナーシップ教育研究センター 取り組みの特徴



- ・ 実践的な教育の3要素:アントレプレナーシップ、専門知識、グローバルカ
- ・ 大学教育をコアに、中高生、社会人・一般へと、一気通貫の教育プログラム



## ウズベキスタンにおける起業家育成 並びにアントレプレナーシップ教育研究センターの設立構想

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター(以降、当センター)による起業家及び小規模事業経営者の育成により事業創出と成長、そして雇用機会増大に貢献することから始める。そのためにウズベキスタンの既存ビジネススクールや既に教育機会を提供しているウズベキスタンジャパンセンターと連携しながら、より適切な教育機会の提供を考えている。

当センターの事業家育成は「実践力」が身に付くことに特徴がある。実践力はメンタリングを含めた伴走型の指導で育まれる。伴走するには当センターがウズベキスタンに活動の拠点を置くことが必要であり、当センターのウズベキスタン事務所設立を目指している。

また当センターがウズベキスタンへ進出することにより、日本-ウズベキスタン両国の大学生と社会人が、人的交流を含めた学びの拠点とする構想も描いている。



山形大学 Yamagata University

アントレプレナーシップ教育研究センター In ウズベキスタン 設立

2025年(見込)

2024年からの取組み



## ウズベキスタン社会人研修生受け入れ概要



日程	2023年12月20日~25日		
対象者	The Agency of (中小企業支援機関)所属の 企業支援メンター等 24名		
目的	雇用機会創出に必要な 中小企業の経営改善および事業創出を支援する人材の育成		
主な研修内容	<ul> <li>・アントレプレナーシップに関する講義</li> <li>・リーンマネジメントの基礎に関する講義</li> <li>・県内企業訪問および県内県内企業経営者との交流</li> <li>・県内企業での経営改善指導事例の紹介</li> </ul>	R	
	MOTIVATION SUCCESS  GOAL  GOAL		



## 以降、参考資料

## ウズベキスタン研修生訪問企業



企業名	所在地	事業概要
オリエンタルカーペット(株)	山辺町	素足の生活様式に合わせた日本のじゅうたんを 独自につくり続け、日本で唯一、糸づくりから、 染め、織り、アフターケアまで一貫生産。
山形朝日(株)	南陽市	大型精密板金加工メーカーとして、現在は 主に通信インフラ関連のラック製品を中心に生産。 ウズベキスタン向けにも出荷実績あり。
出羽桜酒造㈱	天童市	明治25年(1892年)の創業以来、地元の蔵人による 完全手造りの酒造りに徹し、特に吟醸酒の普及に貢献。 現在では、世界25か国以上に販路を拡大。
㈱菊地保寿堂	山形市	現在、日本で一番古い鉄瓶屋で、創業1604年。 日本伝統の鋳物技術を今に伝え、日本で唯一 和銑(日本刀の元材料と同じ)鉄瓶を製作。

• 主に地域の素材に付加価値を加えて事業を成長させてきた企業を訪問

### PRESS RELEASE



令和5年(2023年)12月7日

## 新酒・純米大吟醸「山形大学燦樹(きらめき)2024」完成 ~山形大学オリジナル純米大吟醸酒、12月14日より販売開始~

### 【本件のポイント】

- 農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門(高坂農場)で 栽培された米を原料に使用した純米大吟醸酒が本年度も完成した。
- 原料米には高坂農場産出羽燦々を100%使用。
- 前年度に引き続き、「稲刈り」「仕込み」の一部に学生が参加した。
- 今年も売上の一部を学生への支援に活用する。



### 【概要】

山形大学オリジナル純米大吟醸酒が完成し、12月14日より販売を開始します。農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門(高坂農場)で栽培された米を原料に使用した山形大学オリジナル純米大吟醸酒は、2007年から山形大学生協で販売しています。昨年に続き本年度も奥羽自慢株式会社が醸造元となり、新酒を販売します。原料米の酒造好適米「出羽燦々」は、特別栽培の認証を受け、慣行より50%以下の農薬・化学肥料で栽培したものです。昨年に続き、今年も酒造りに学生が参加しました。約2,200本(約451万円)の販売を予定しており、売り上げの一部は、学生への支援として活用されます。

### 【山形大学燦樹(きらめき)2024】

醸造本数:生酒約500本、にごり約400本、火入れ約1,300本の合計約2,200本

価格:いずれも、720ml 瓶入り1本2,050円(税込)

小白川・飯田・米沢・鶴岡の各キャンパス内にある山形大学生協の店舗のほか、同組合のホームページからも通信販売にて購入することができます。(https://www.yamagata.u-coop.or.jp/)

### 【原料米は附属農場産の「出羽燦々」】

原料米には、農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門(高坂農場)で栽培された酒造好適米 「出羽燦々」を100%使用。山形大学燦樹(きらめき)2011より、特別栽培の認証を受け慣行より50%以 下の農薬・化学肥料で栽培しています。

#### 【醸造元】

奥羽自慢株式会社(山形県鶴岡市上山添神明前123) ※2022年2月発売以降3回目

### 【学生の参加による酒造り】

酒の製造過程を学び、酒に対する親しみを持ってもらう目的で、9月に高坂農場にて稲刈り、11月に奥羽自慢株式会社にて仕込みの一部を実施。山大生のべ36名が参加した。「日本酒が職人さんの手でつくられているということを知った」「日本酒の造り方が勉強になった」などの感想が寄せられた。

### 【売り上げの一部は学生の支援に】

今年は、2,200本(約451万円)の販売が予定されており、完売した場合には、約40万円が「山形大学基金」に寄附され、学生への支援として活用されます。

お問い合わせ

山形大学生活協同組合 小白川コンビニ店 Ciel TEL 023-641-8662

## 純米大吟醸 「山形大学燦樹(きらめき) 2 0 2 4 」

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター 奥羽自慢株式会社 山形大学生活協同組合



## 純米大吟醸 「山形大学燦樹(きらめき) 2 0 2 4 」

- ・農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門(高坂農場)で栽培された酒造好適米「出羽燦々」を100%使用した、山形大学オリジナル純米大吟醸酒「燦樹」を本年も販売いたします。
- 2023BY (醸造年度) は、例年2月に発売するところを12月に発売することといたしました。
- 2,200本の販売予定で、生酒・火入・にごりの3種。
- 今回も売上の一部を「山形大学基金」等に寄付し学生支援に活用いただく。販売本数を多くしたので、より多くの学生への支援に活用いただきたいと考えている。

## 学生の参加による酒造り

- ①稲刈り
- 2023年9月15日実施
  - ・・・22名の学生が参加
- ・高坂農場にて実施





## 学生の参加による酒造り

- ②仕込み
- 2023年11月4日実施
  - ・・・14名の学生が参加
- ・奥羽自慢にて実施





## 山形大学 農学部

附属農場産酒米 出羽燦々

使用

山形大学純米大吟醸

2023年

12月14日(木) 販売開始

牛酒

火入れ酒

にごり

鶴岡市 奥羽自慢 醸造

2,200本 限定販売

720ml

¥2,050 (税込)

華やかな香りとフルーティで爽やかな甘みのお酒です。加工処理をしていない 香り高い生酒と味に落ち着きがある火入れ酒の違いをお楽しみください。 にごり酒はうっすら濁りのあるお酒で生酒とも味わいが異なる一品です。

~売上額の10%が「山形大学基金」に寄付され学生支援に活用されます~

### ご購入・お問合せ

山形大学生協小白川コンビニ店・各購買書籍店 【店舗購入】 【WEB購入】山形大学生協ホームページ「ショッピング」



※WEB購入は本数により送料をいただきます



## PRESS RELEASE



令和5年(2023年)12月7日

## 「山形五堰」が世界かんがい施設遺産に登録!

~学生サークル「まちの記憶を残し隊」が山形市の清掃・PR活動を支援~

### 【本件のポイント】

- 令和5年(2023年)3月1日に山形大学の学生有志が、未来に残すべきかけが えのない地域の「記憶」を残すべく、サークル(登録団体)として「山形大 学まちの記憶を残し隊」を結成しました。私たちは、馬見ヶ崎川・五堰水利 調整協議会(事務局:山形市農村整備課)が今年度開始した「山形五堰環境 保全モデル事業」の第一号として、「山形五堰」のうち大学の周りを流れる 「笹堰」の清掃・維持管理を行っています。
- 「山形五堰」が世界かんがい施設遺産に登録されたことをきっかけに、山形 市農村整備課からの依頼を受けて、「まちの記憶を残し隊」が「山形五堰」 の横断幕のデザインを担当することになりました。
- 横断幕には、「つなぐちから。」社会共創活動推進プロジェクトにより作成 された「山形五堰」まちあるきマップのQRコードが盛り込まれています。



「山形五堰」のゆるキャラ

### 【概要】

令和5年(2023年)3月1日に山形大学の学生有志が、未来に残すべきかけがえのない地域の「記憶」を残すべく、サークル(登録団体)として「山形大学まちの記憶を残し隊」を結成し、中心市街地の街並みの撮影やまちの人びとへのインタビューを日々行っています。また、馬見ヶ崎川・五堰水利調整協議会(事務局:山形市農村整備課)による「山形五堰環境保全モデル事業」の一環で、「山形五堰」の一つで山形大学小白川キャンパスの周囲を流れる笹堰の清掃活動を行っています。このような縁から、このたび、「山形五堰」が世界かんがい施設遺産に登録されたことを受けて、「まちの記憶を残し隊」が山形市農村整備課の依頼で「山形五堰」を紹介する横断幕のデザインを担当することになりました。

「山形五堰」の横断幕のデザインは、「まちの記憶を残し隊」に所属する、人文社会科学部2年の鈴木淳太、地域教育文化学部1年・芳賀日和の2名が担当しました。横断幕には、山形大学「つなぐちから。」社会共創活動推進プロジェクトの成果である、過去と現在の地図を比較しながら「山形五堰」のスポットを巡ることができる「山形五堰」まちあるきマップの QR コードを搭載しています。

「山形五堰」横断幕は、山形市内を流れる5つの堰に配置されることになっています。また、今後作成予定のポスターには、山形大学地域共創 STEAM 教育推進センター(YU★STEAM)が8月19日に実施したイベント「「山形五堰」のゆるキャラを作ろう!」にて小学生の沼澤佳歩さんと芳賀が作成したゆるキャラが登場する予定です。横断幕やポスターは、「山形五堰」は来年(2024年)で誕生から400年という節目を迎えることから、「山形五堰」のPRに活用されることが期待されます。

■ 「山形五堰」まちあるきマップ : <a href="https://cherry.yum-archives.net/yamagata-goseki/">https://cherry.yum-archives.net/yamagata-goseki/</a>



### ※用語解説

1. 山形五堰(やまがたごせき): 山形市内を流れる笹堰(ささぜき)・御殿堰(ごてんぜき)・八ヶ郷堰(はっかごうぜき)・宮町堰(みやまちぜき)・双月堰(そうつきぜき)の五つの堰(農業用水路)の総称で、江戸時代の1624年(寛永元)に、山形藩主・鳥居忠政(とりいただまさ)が整備したとされています。

お問い合わせ

学生サークル「山形大学まちの記憶を残し隊」 メール:machinokiokuwonokoshitai@gmail.com

### 【「山形五堰」横断幕デザイン】

笹堰



世界がんがい山形五堰施設遺産登録 笹堰



御殿堰





世界かんがい山形五堰施設遺産登録 御殿り



八ヶ郷堰





世界かんがい山形五堰施設遺産登録 ハケ郷堰



宮町堰





世界かんがい山形五堰施設遺産登録 宮町堰



双月堰





世界かんがい山形五堰 施設遺産登録 双月堰

## PRESS RELEASE



令和5年(2023年)12月7日

## 「ユネスコ フェイクニュース対応ハンドブック――SNS時代のジャーナリズム教育」明石書店 発刊のお知らせ

### 【本件のポイント】

- 生成AI普及により、ますますフェイクニュースやフェイク動画の問題が拡大している。そのため、ユネスコによるフェイクニュース対応ハンドブックを2年がかりで翻訳し発刊に至った。
- フェイクニュースの問題を指摘する図書はたくさんあるが、フェイクニュースに対応するためのジャーナリズム教育に関する書籍は、日本語ではこれまで存在しない。日本語では初のハンドブックとなる。
- フェイクニュースの対応方法として、子どもに利用させないようにするなど、使用を禁止する動きがある。禁止したところで問題を後送りにするだけである。50歳代で自身のブログが炎上し自殺した議員が東北地方には過去にいた。どう指導し対応していくとよいか、ユネスコによるハンドブックは大変有意義であり、情報リテラシー教育の進展が期待される。



### 【概要】

情報の氾濫が社会を揺さぶる中、フェイクニュースにどう立ち向かうか。ジャーナリズムの信頼性に影響を与える要因をグローバルな視点から解説し、デジタル時代の情報の混乱に対応するための実践的なカリキュラムを提供。ジャーナリズム倫理と情報の公正な伝達に焦点を当てた、「ユネスコ フェイクニュース対応ハンドブック――SNS 時代のジャーナリズム教育」は、情報社会を生きるすべての人にとって必携のハンドブックである。

### 【背景】

ゼレンスキー大統領や岸田首相のフェイク動画が拡散されるなど、フェイクニュースの事件は後を絶たない。生成 AI 普及により、ますますフェイクニュースやフェイク動画の問題が拡大している。

### 【研究手法・研究成果】

そのため、ユネスコによるフェイクニュース対応ハンドブックを 2 年がかりで翻訳し発刊に至った。 【詳細:https://amzn.to/3ZpCklz 2023/12/30 ユネスコ(編集), 加納 寛子(監修, 翻訳)】

### 【今後の展望】

フェイクニュースの対応方法として、スマートフォンやインターネットを禁止するのではなく、正しく情報の扱い方を教えることのできる情報リテラシー教育への進展に寄与する。

お問い合わせ

学術研究院准教授 情報教育学/加納寛子

TEL 023-628-4689 メール kanoh@cc.yamagata-u.ac.jp

## PRESS RELEASE



令和5年12月7日

## 山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止について

### 【本件のポイント】

● 本年7月に判明しました令和5年度山形大学入学者選抜における入試ミスについて、 調査・検証・改善のために設置した委員会から報告書が提出されましたので公表します。



### 【概要】

本学の令和5年度入学者選抜試験一般選抜(前期日程)において発生した入試ミスについて、本年7月28日に設置した「山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委員会」において、入試ミスの原因等の検証及び再発防止策の検討を行い、このたび資料のとおり報告書がまとまりました。

受験生の方々はもとより、保護者の皆様及び高等学校等関係者の皆様に多大な御迷惑と御心配をおかけしましたことに対し改めてお詫び申し上げます。

学外委員2名と学内委員5名の計7名の委員で構成された「山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委員会」においては、関係者に対するアンケート調査及び聞き取り調査を実施しながら原因究明と再発防止策の検討を行ってきました。

同委員会では、計5回の委員会を開催し、その結果を報告書として取りまとめ、この度、委員長から学長に報告がなされました。

### 【今後の対応について】

この報告書については、本学ホームページに掲載し学内外に公表すると共に、大学をあげて再発防止に取り組んでいきます。

なお、報告書に記されている再発防止策について、直ちに実施可能な事項については、既に本年度から導入を始めており、その他の事項についても速やかに改善がなされるよう継続して検討を進めていきます。

山形大学入学者選抜に係る検証及び 入試ミス再発防止検討委員会報告書

## 令和5年11月29日

山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委員会

## 目 次

はし	じめに	• • • • • • • • • • • • • • • •	• 1
1	本事案の概要		• 2
2	検証結果	•••••	• 4
3	再発防止策	•••••	. 8
おれ	りりに	•••••	1 1
関連	重資料 		
1	山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委	員会設置要項	
2	2 山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委		1 2
-			1 3
5	8 解答例に関するアンケート		
4	- 採点に関するアンケート(工学部対象)	•••••	1 4
			1 6
5	5 原因及び再発防止策 対応表		1 8
			_

### はじめに

本学では、本年7月に学外から指摘があり、令和5年度一般選抜(前期日程)の共通問題である理科(物理)と理科(化学)において解答例に誤りがあると判断し採点と合否判定をやり直した結果、本来、合格とすべきところを不合格となった受験生が4人いたという重大な入試ミスが明らかになった。また、採点のやり直しの過程で工学部において採点に係るミスが判明し、数学と理科で採点をやり直して合否判定を行った結果、新たに1人の合格者がいることも判明した。合計5人の受験生の方に本学の入試ミスによる影響を与えるという重大な事案(以下、「本事案」という。)を引き起こした。

本事案について、学長はじめ入学試験担当理事、関係学部長等で構成する総合対策本部を7月13日に設置して、追加合格となった受験生への最大限の支援、原因の究明、再発防止に向けた取り組みを開始した。その中で令和5年7月26日に公表した「令和5年度山形大学入学者選抜一般選抜(前期日程)における入試ミスについて」では、「ミス等が発生したことについて調査・検証・改善のための委員会を設置し、再発防止策を検討します。なお、調査の内容等については、学内外に公表する予定です。」としている。

これにより7月28日付けで、【関連資料1】「山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委員会設置要項」(以下、「本委員会」という。)を制定し、学外委員を含む7名の委員で、本事案の原因、入学試験問題の作成・査読・校正・解答要領に沿った作業及び実施体制等を検証し、その結果を踏まえて、再発防止策を取りまとめ、報告書にすることとした。

本委員会は、8月9日に第1回委員会を開催した後、11月までに計5回の委員会において検討を行った(委員会開催日は【関連資料2】に記載)。また、解答例と採点(工学部対象)に関するアンケートを8月に実施するとともに、その結果に基づき10月に聞き取り調査を行い、本事案の原因解明と解答例及び採点における問題の所在を明らかにした。

原因になった,解答例の誤りについては①作業における見落とし,②時間的な問題,③ 試験問題及び解答例の確認,④人選及び入試実施体制,の観点から,採点ミスについては ①問題に対する理解,②人材育成,③採点の実施方法及び情報共有,④入試実施に係る意 見等の集約,の観点から再発防止策を示し,今後の入学試験問題作成から解答例作成まで の作業及び採点作業に係る入試ミスの防止につなげることとした。

本報告書は、「1 本事案の概要」、「2 検証結果」、「3 再発防止策」から構成して報告する。関連資料と合わせて、お読みいただきたい。

### 1 本事案の概要

令和5年2月25日(土)に実施した入学者選抜試験一般選抜(前期日程)の理科(物理)及び理科(化学)の解答例について、令和5年7月5日に問題集等の出版社から照会があり、確認した結果、解答例に誤りがあることが判明した。

採点をやり直したところ、450 件の得点変更があり、合否判定をやり直した結果、医学部医学科において2人、工学部昼間コース機械システム工学科において2人の計4人が追加合格者となった。また、正しい解答例に基づいた採点のやり直しを行っている中で、工学部の理科(化学)の採点について解答例の誤りに付随しない採点ミス等が見つかったことから、工学部の全科目(理科(物理)、理科(化学)、理科(生物)、数学の4科目)について採点をやり直したところ、70 件の採点ミスが判明し、改めて合否判定を行った結果、さらに工学部昼間コース機械システム工学科において1人が追加合格者となった。

この結果,追加合格者は,医学部医学科2人,工学部昼間コース機械システム工学科3人の計5人となった。

本学では、「山形大学入学試験実施会議規程」に則り選出された問題作成者、査読・校正委員、特別校正委員が「入学試験問題の作成・査読・校正・解答要領」に基づき、入学試験問題の点検を行い、その中で解答例の査読・校正を実施している。実際に①査読、②入稿前校正(一部の科目のみ実施)、③事前確認、④試験当日の試験開始前最終点検の最低3回以上解答例の確認を行っていたが、誤りを発見することができなかった。

工学部では「個別学力試験採点作業について」に基づき、採点集計を3回行っているが、 集計等のミスが生じていた。

該当する入学者選抜試験と入試ミスに係る基本情報は、次のとおりである。

(1) 試験実施日及び合格発表日

試験実施日

· 令和 5 年 2 月 25 日 (土)

合格発表日

- · 令和 5 年 3 月 7 日 (火)
- (2) 入試方法の区分, 試験科目
  - 一般選抜(前期日程), 理科(物理)・理科(化学)・理科(生物)・数学
- (3) 入試ミスが生じた学部・学科, 試験科目
  - ・理学部 理学科 ・・・理科(物理), 理科(化学)
  - ・医学部 医学科 ・・・理科 (物理), 理科 (化学)
  - ・工学部 昼間コース 高分子・有機材料工学科,情報・エレクトロニクス学科,機械システム工学科・・・理科(物理),理科(化学),数学

- ・工学部 昼間コース 化学・バイオ工学科・・・理科 (物理), 理科 (化学), 理科 (生物)
- ・工学部 フレックスコース システム創成工学科・・・理科 (物理), 理科 (化学), 数学
- ・農学部 食料生命環境学科 ・・・理科 (化学) ※工学部が課す「理科 (物理)」の問題は、解答例の誤りが判明した「理科 (物理)」 とは異なる。

### (4) 当該試験科目の受験者数

- ・理科(物理) 278 人(理学部 61 人, 医学部 217 人)
- ・理科(化学) 631人(理学部 64人, 医学部 329人, 工学部 188人, 農学部 50人)
- ・理科(物理) 344人 (工学部 344人) ※工学部独自の問題
- ・理科(生物) 8人(工学部8人)
- ・数学 473人 (工学部 473人) ※工学部独自の問題

### 2 検証結果

- (1)アンケート調査から
  - ① 解答例に関するアンケート結果(アンケートの設問は【関連資料3】を参照) アンケート実施に先立ち、令和5年度入試における解答例についても、理科(物 理)については3回、理科(化学)については、入稿前校正を行い4回の点検を実 施したことを確認した。
    - ・問題作成者を対象にした「解答例の内容チェック」に関する設問については、「解答例の内容をチェックしなかった」とした回答はなかったが、多くの問題作成者が「十分にチェックした」と認識しているものの、「十分にチェックしなかった」と回答した問題作成者が一定数いることが判明した。
    - ・「解答を試み」に関する設問については、「解答の試みを行わなかった」とする回答はなかった。「すべての問題で解答を試みた後で、解答例との照合を行った」とする回答と、「分担した問題のみ解答を試みた後で、解答例との照合を行った」または「解答例との照合を行いながら解答の試みを行った」とする回答に分かれた。これらの結果は、問題作成者及び査読・校正委員ともにほぼ同じ結果であった。特別校正委員では、「担当した校正において解答例をチェックしなかった」とする回答が一定数あった。
    - ・全委員を対象にした「他の委員と共同して解答例をチェックした」との設問については、すべて「参加した校正等のすべての作業において他の委員と共同して解答例をチェックした」とする回答であった。
    - ・全委員を対象とした「作業時間」に関する設問については、問題作成者の「校正 すべての作業時間は十分であった」とする回答が大多数であった。一方、査読・ 校正委員では、「作業時間が足りなかった、作業時間が十分ではなかった」とする 回答が多くあった。

特別校正委員でも査読・校正委員と同様の結果であった。作業時間については、役割によって異なる傾向が明らかになった。

- ・自由記述では、1)時間的制約が大きいことの記述、2)方法に関わって、いくつかの改善事項の指摘、3)人に関する諸要因の記述、などが多く含まれていた。
- ② 採点に関するアンケート結果(アンケートの設問は【関連資料4】を参照) 工学部における採点・集計は「1回目(赤鉛筆使用)採点」,「2回目(青鉛筆 使用)採点」及び「3回目(緑鉛筆使用)集計」を実施することになっている。

- ・採点にあたって,「工学部入学試験部会が定めた『個別学力試験採点作業について』及び『採点業務に関する基本事項』を確認,理解したか」との設問については,「確認,理解した」とする回答がほとんどであったが,「確認,理解していない」や「確認したか記憶が定かでない」との回答が存在した。
- ・「定められた役割について、定められた採点・集計方法で作業を行ったか」との 設問については、ほぼ全員が「定められた採点・集計方法で作業を行った」と回 答した。
- ・「採点業務に関する基本事項を遵守し、配点、部分点のつけ方を十分に理解して 採点を行ったか」との設問については、全員が「採点業務に関する基本事項を遵 守し、配点、部分点のつけ方を十分に理解して採点を行った」とする回答であっ た。
- ・自由記述は、1)時間に関わる問題、2)方法に関わる問題、特に採点方法の改善が必要な事項の指摘、3)理解に関わる問題、特に採点中の共通理解や周知方法に関する指摘、4)作業に関わる疲労など人に関する問題、などが多く記述された。

### (2)聞き取り調査から

### ① 解答例に関する聞き取り調査結果

第一次調査として実施したアンケートの結果を踏まえ、理科(物理)及び理科(化学)の問題作成等業務に携わった教員に対する聞き取り調査を実施した。 その結果、今回のミスが発生した原因については、次の4点が挙げられる。

・今回のミスの最大の原因は見落としである。問題の作成は、問題作成者による問題及び解答例作成の後、1回目として「試験問題及び解答例の査読」、2回目として「試験問題(印刷業者)入稿前校正」(査読において問題に大きな変更がある科目のみ実施)、3回目「試験問題初校」、4回目「試験問題再校及び解答例のチェック」、5回目「試験問題の事前確認、解答例のチェック」、6回目「試験開始前最終点検」が行われることになっている。これら作業の中には、解答例に関するチェックの機会が3回(科目によっては4回)含まれるが、誤りを検出できなかった。聞き取り調査では、正しい解答例を見てどう思ったかとの問いかけに対して、『これは何回チェックしても気づけない』といった返答があり、見落としたことに対しての意識は弱く、責任感が希薄である印象を受けた。

さらに、採点中、一部の学部で疑義が生じたものの、学部間の情報共有がなされておらず、採点時における誤りの発見にはつながらなかった。

- ・次に時間的な問題である。査読・校正・チェック作業はいずれも、年度初めに 1 年間の問題作成スケジュールが関係者に通知され、関係者は自らが関わる作業日の予定を確保できるようになっている。また、査読・校正・チェック作業は、ほぼ朝から夕方までの1日または2日間で作業できることとなっており、時間が足りないことは想定しにくい。確保されている作業時間は十分であるものの、自分の作業が終了するまで他の業務の担当者が別室で待機しているという無言のプレッシャーがあり、また比較的短時間で終了することが慣例化しているとの意見があり、納得できるまで作業ができなかったことが示唆される。
- ・さらに問題を確認できる機会が少ないことである。問題や解答例の誤りを早期に 発見にするためには、できるだけ多くの人の目に触れることが重要である。

例えば、試験終了時点から採点までの間に、事前に試験問題や解答例を見る機会がなく、採点者は自らが担当する問題を解いたり、十分に問題の趣旨を理解したりすることがないまま採点作業を行っている。そのため、解答例に従って機械的に採点が行われていることが確認された。

・最後は人的な要因と入試実施体制の脆弱さである。教員数が減っていく状況の中で、長年入試問題作成に関わっている教員と経験の浅い教員に、その手法等が必ずしも共有されておらず、その結果、組織としてミスを防ぐことができなかったと言える。また、入試業務に対する意識が高くない教員がいるとの指摘もあり、これらを背景としてミスが起きたことも考えられる。共通問題作成では複数のキャンパスから選出された教員が当たっており、移動などの負担が大きい。学部間の連携が希薄になると、作題・査読・校正・採点作業に影響することは明らかであり、見落としの背景にある大きな課題であると考えられる。

#### ② 採点に関する聞き取り調査結果

第一次調査として実施したアンケートの結果を踏まえ、工学部の採点者に対する聞き取り調査を実施した。

その結果、今回のミスが発生した原因については、次の4点が挙げられる。

- ・まずは問題に関する理解不足である。採点者は、試験終了時点から採点当日までの間に、事前に試験問題や解答例を見る機会がなく、作題等に関わった一部の採点者を除き、ほとんどが採点会場での初見となり、問題を理解しないまま解答例に従って採点を行っていた。問題を理解していなければ細部の採点でミスが生じる可能性は高まる。
- ・次は人的な要因である。入試業務に対する意識が高くない教員がいるとの意見が ここでもあった。作業に集中できなければ人為的なミスを防ぐことは困難である。

- ・さらに採点の実施方法である。前期日程の工学部における採点は、学外試験場からの答案の到着を待って実施される。採点者は、採点当日の朝に集合し、各科目の大問等に分かれて問題と解答例を渡され、3回の採点・確認が実施される。解答に至るまでに複数のアプローチが考えられるような科目では、採点作業の途中で部分点の見直しを行うことが多々あり、そこまで採点を行った答案も再度採点や修正をやり直すことがあった。その結果、3回のチェックでも漏れてしまったと考えられる。採点途中の変更については、ホワイトボード等を利用して採点者に周知していたが徹底されていなかった可能性も指摘できる。
- ・最後は意見を汲み上げるシステムが明確になっていないことである。聞き取り調 査で出された意見については、以前から持ち続けていた教員は少なからずいたと 推察される。しかし、これまで現場の声を汲み上げるシステムが明確になってい たとは断言できないし、実質的には機能していなかったと言わざるを得ない。

### 3 再発防止策

「2 検証結果」を踏まえ、本委員会で取りまとめた再発防止策は以下のとおりである。 なお、以下に示した防止策について、直ちに実施可能なものについては令和6年度入試より実施すること。

### (1) 解答例の誤りについて

- ① 作業における見落としについて
  - ・解答例に関する査読・校正作業では、最初に教科書等を参照しながら自らが問題 を解くこととする。その後、問題作成者が作成した解答例と照らすという手順で 行うことを徹底する。
  - ・そのために、問題作成者、査読・校正委員及び特別校正委員の役割分担を明確に し、業務ごとに別の場所で作業できるような環境をつくる。
  - ・査読・校正委員及び特別校正委員の意見等は、問題作成代表者を介して問題作成 者で協議し、意見等への対応を行う。
  - ・上記の点については、「入学試験問題の作成・査読・校正・解答要領」の見直しを 行いながら、直ちに実施可能なものについては、令和6年度入試から実施するこ と。

### ② 時間的な問題について

- ・1年間の問題作成スケジュールに関しては、大きな問題点は見つからなかった。 作業時間は十分に確保されているものの、各委員が納得できるまで点検を行える よう、作業を終えた委員の待機室を設けるなどの環境をつくる。
- ・また,時間が短いとの意見があった業務については,作業開始時間を早める等の 改善を図る。
- ・上記の点については、「入学試験問題の作成・査読・校正・解答要領」の見直しを 行いながら、直ちに実施可能なものについては、令和6年度入試から実施するこ と。

#### ③ 試験問題及び解答例の確認について

- ・試験終了時点から採点までの間に、採点者が事前に試験問題や解答例を理解する 機会(時間)を設ける。
- そのために試験終了後速やかに採点者へ問題等を配付することとする。
- ・これまで積極的には行っていなかった本学ホームページへの試験問題及び解答例 の公表を行う。
- ・試験終了後は、学外の専門家等による試験問題及び解答例の点検を実施する。

- ・上記の点については、関係する要領等の見直しを行いながら、直ちに実施可能な ものについては、令和6年度入試から速やかに導入する。
- ・また、他大学では、アドミッションセンターの専任教員による試験問題及び入試 結果の検証を行っている例がある。現在、本学にはアドミッションセンターは設 置されていないが、入試結果を検証する専門部署、あるいは入試全体を統括、学 部間の連絡や連絡調整を担うような専門部署の設置を検討する。

### ④ 人選及び入試実施体制について

- ・入試問題に関わる担当者を選出する際,専門分野の重複がなく少ない人数でも効率的に作業が行えるような人選を行うためには,各教員が担当できる科目の専門分野を登録制にする等の仕組みをつくる。
- ・複数のキャンパスの教員が行う共通問題作成に関する作業において,移動などの 負担を軽減するため,専用回線による遠隔会議などについて専門家の意見を聞き ながら導入の可能性を探る。
- ・委員の入れ替えの際,従前の作業手順が引き継がれるよう,一部の経験者を残す などの工夫を行う。
- ・入試に対する貢献度について教員の評価に取り入れることを考慮する。
- ・上記の点については、令和7年度以降の入試に向けて検討し導入する。
- ・また,これらの仕組みが効果的に機能するために,入試全体を統括,学部間の連絡や連絡調整を担うような人員の増員や専門部署の設置を検討する。

#### (2) 採点ミスについて

- ① 問題に対する理解について
  - ・採点者が問題と解答例を十分に理解した上で採点を行うことができるよう,上記 (1)③と同様に,事前に試験問題や解答例を理解する機会(時間)を設ける。
  - ・上記の点については、関係する要領等の見直しを行いながら、直ちに実施可能な ものについては、令和6年度入試から実施すること。

#### ② 人材育成について

- ・教育研究と同様に教員の資質開発は入試にも当てはまることから,今後,新規採 用職員研修やFD・SD等において継続して入試について取り上げる。
- ・上記の点については、令和6年度に実施できるよう検討する。

### ③ 採点の実施方法及び情報共有について

- ・採点途中での部分点の配点の変更は極力控え、また採点者の疲労を軽減するため に適切に休憩時間を挟んで作業を行うことを徹底する。採点業務の日数について も再検討を行う。
- ・部分点の配点については、採点の基準が曖昧になることがないよう、最終的な部 分点の配点について必ず記録に残す。
- ・採点者が採点・集計しやすいように、解答用紙の中に小計欄を設ける等の工夫を 行う。
- ・各学部における採点中の疑義等については試験実施本部に必ず報告し、問題作成 代表者等で対応を協議した上で当該学部以外の学部にも情報提供を行う。そのた めに、ルートを明確にしたフローチャート等を作成し活用する。
- ・上記の点については、関係する委員会において検討を行い、直ちに実施可能なも のについては、令和6年度入試から実施すること。

### ④ 入試実施に係る意見等の集約について

- ・入試実施に係る意見等を集約する仕組みはあるものの,試験問題や採点に関して は意見等をどこに伝えたらいいのかというルートが明確でない。意見等を集約す る機会を試験実施直後及び採点業務終了後等,複数回に分けて行うことで問題点 の共有を図る。
- ・上記の点については、関係する委員会において検討を行い、令和6年度入試から 速やかに導入する。

なお、上記の再発防止策については、【関連資料 5 】「原因及び再発防止策 対応表」 (P18) に表としてまとめているので、ご覧いただきたい。

### おわりに

本学は、2001年に過去5年間に誤って428人を不合格とした判定ミスによる重大な入試 過誤を起こした。20年以上経ったとはいえ、再び入試ミスを引き起こしたことは決して許 されることではない。

今回の入試ミスを受けて実施したアンケート調査では、「ヒューマンファクターが要因なのでミスの再発防止はできない」との記述があったが、本当にそうなのであろうか。この記述に疑問すら抱けなくなったとき、本学に対する信頼や信用は地に落ちることをまずは強く自覚すべきであろう。今回の事案に対して本学の受験生やご家族はどう思ったのか、ぜひイメージしていただきたい。

入試ミスの再発防止策については、アンケート及び聞き取り調査の結果に基づき検討し、 具体的な対策を提案した。本報告書の再発防止策を着実に実行するとともに、入試ミスを 繰り返さないよう、そして過去のミスからの教訓を風化させないよう、継続して改善し続 ける大学になる必要がある。

そのため、全学的に作題・査読・校正・採点作業を含めた入試実施業務を所管する、専任の教員と事務職員を配置した「アドミッションセンター(仮称)」を設置するとともに、現行の入試を評価・分析し、新しい入試の在り方を議論する「入試企画戦略室(仮称)」を戦略本部に設置するなど、ガバナンス体制の更なる強化を実現することも期待したい。

なお、再発防止策において「直ちに実施可能なものについては令和6年度入試より実施すること。」とされた事項のうち、「入学試験問題の作成・査読・校正・解答要領」の見直し、採点に関係する要領等の見直し、採点の実施方法及び情報共有についての検討などは、既に実施済みである。

### 【関連資料1】

山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委員会設置要項

令和5年7月28日制定

(設置)

- 第1条 令和5年度入学者選抜における採点ミスに係る総合対策本部に、山形大学入学者 選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。 (任務及び目的)
- 第2条 委員会は、山形大学(以下「本学」という。)の令和5年度一般選抜(前期日程)で発生した入試ミスについて、その原因、本学の「入学試験問題の作成・査読・校正・解答要領」及びそれに基づく実施等を検証するとともに、再発防止のための対策を検討し、本学における入学者選抜の改善案を報告書にまとめることを目的とする。
- 第3条 委員会は、次に掲げる委員で組織する。
  - (1) 学長が指名する理事・副学長
  - (2) 学長が指名する教員
  - (3) 学外の学識経験者
  - (4) その他学長が必要と認めた者

(委員長)

(組織)

- 第4条 委員会に委員長を置き、前条第3号の委員のうちから学長が指名する者をもって 充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

- 第5条 委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を認め、意見を聴くことができる。 (事務)
- 第6条 委員会の事務は、エンロールメント・マネジメント部入試課において遂行する。 (その他)
- 第7条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

この要項は、令和5年7月28日から施行する。

### 【関連資料2】

### 山形大学入学者選抜に係る検証及び入試ミス再発防止検討委員会 委員名簿

	職名等	氏	名	備考
第1号委員	理事(企画,評価・IR,総務, 危機管理,内部統制担当)・副学 長	花輪	公雄	
第1号委員	理事(教育,入学試験担当)· 副学長	出口	毅	
第2号委員	学術研究院教授(理学部主担 当)	松井	淳	山形大学入学試験実施会議 副議長経験者
第2号委員	学術研究院教授(地域教育文化学部 主担当),学士課程基盤教育院長	三上	英司	山形大学共通問題代表者会 議副議長経験者
第3号委員	東北大学 副理事(入試担当)	◎長濱	裕幸	
第3号委員	東北大学 高度教養教育・学生 支援機構 教授	宮本	友弘	
第4号委員	学術研究院教授(人文社会科学部主担当)	清塚	邦彦	学部長経験者

### ◎:委員長

### 委員会開催日

第1回 令和5年8月9日

第2回 令和5年9月29日

第3回 令和5年11月 2日

第4回 令和5年11月15日

第5回 令和5年11月22日

### 【関連資料3】

解答例に関するアンケート調査

- 1 教科・科目 ※選択肢設定、解答例を作成している教科・科目
  - ○物理【共通】
  - ○化学【共通】
- 2 委員種別 ※選択肢設定
  - ○問題作成者 ○査読·校正委員 ○特別校正委員
- 3 問題作成者対象 問題及び解答例作成作業において、あてはまる1つを選択
  - ○私は問題作成時 (解答例作成) 解答例の内容を十分にチェックした。
  - ○私は問題作成時 (解答例作成) 解答例の内容を十分にチェックしなかった。
  - ○私は解答例作成の担当ではなかったので、解答例の内容をチェックしなかった。
- 4 問題作成者対象 査読・校正等作業において、あてはまる1つを選択
  - ○私はすべての問題で解答を試みた後で、解答例との照合を行った。
  - ○私は分担した問題のみ解答を試みた後で、解答例との照合を行った。
  - ○私は解答例との照合を行いながら解答の試みを行った。
  - ○私は解答の試みを行わなかった。
- 5 査読・校正委員対象 あてはまる1つを選択
  - ○私は査読において、すべての問題で解答を試みた後で、解答例との照合を行った。
  - ○私は査読において、分担した問題のみ解答を試みた後で、解答例との照合を行った。
  - ○私は査読において、解答例との照合を行いながら解答の試みを行った。
  - ○私は査読において、解答の試みを行わなかった。
- 6 特別校正委員対象 あてはまる1つを選択
  - ○私は担当した校正において解答例をチェックした。
  - ○私は担当した校正において解答例をチェックしなかった。
- 7 全委員対象 あてはまる1つを選択
  - ○私は参加した校正すべてにおいて他の委員と共同して解答例をチェックした。
  - ○私は参加した校正において他の委員と共同して解答例をチェックしないことがあった。

8 全委員対象	あてはまる	5 1	つを選択
---------	-------	-----	------

- ○私が参加した校正すべての作業時間は十分であった。
- ○私が参加した校正すべての作業時間が足りなかった。
- ○私は参加した校正の一部について作業時間が十分ではなかった。 (作業時間が十分ではなかった校正を「9自由記述」欄に記入してください。

### 9 自由記述(全委員対象)

○解答例は「査読」,	「入稿前校正」,	「再校」及び	「事前確認」で	チェック	することにな
っていますが,解	答例に誤りがあ	ったのはなぜ	だと考えますか	。今回,	チェックシス
テムが機能しなか	った理由につい	て,何かお気~	づきのことがあれ	1ば記入し	てください。

### 【関連資料4】

採点に関するアンケート調査(工学部対象)

- 1 教科・科目 ※選択肢設定, 採点した教科・科目
  - ○物理 ○化学 ○生物 ○数学
- 2 採点にあたって、工学部入学試験部会が定めた「個別学力試験採点作業について」及び「採点業務に関する基本事項」を確認、理解しましたか。
  - ○私は「個別学力試験採点作業について」及び「採点業務に関する基本事項」を確認, 理解した。
  - ○私は「個別学力試験採点作業について」及び「採点業務に関する基本事項」を確認, 理解していない.
  - ○私は「個別学力試験採点作業について」及び「採点業務に関する基本事項」を確認したか記憶が定かでない。
- 3 あてはまる1つを選択
  - ○私は定められた役割について、定められた採点・集計方法で作業を行った。
  - ○私は定められた役割について、定められた採点・集計方法で作業を行わなかった。 (その理由を「5自由記述 | 欄に記入してください)
  - ○私は定められた役割について、定められた採点・集計方法で作業を行ったか記憶が定かでない。(その理由を「5自由記述」欄に記入してください)
- 4 あてはまる1つを選択
  - ○私は採点業務に関する基本事項を遵守し、配点、部分点のつけ方を十分に理解して採 点を行った。
  - ○私は採点業務に関する基本事項は遵守したが、配点、部分点のつけ方を理解せずに採 点を行った。

(その理由を「5自由記述」欄に記入してください)

○私は採点業務に関する基本事項を遵守せず、また、配点、部分点のつけ方を理解せず に採点を行った。

(その理由を「5自由記述」欄に記入してください)

5 自由記述(全委員対象)

〇「個別学力試験採点作業について」では、採点・集計は「1回目(赤	鉛筆)」,「2回目
(青鉛筆)」及び「3回目(緑鉛筆)」で実施することになっています	<sup>-</sup> が,採点・集計
に誤りがあったのはなぜだと考えますか。	
今回,チェックシステムが機能しなかった理由について,何かお気	<b>〔</b> づきのことがあ
れば記入してください。	

### 【関連資料5】

### 原因及び再発防止策 対応表

### (1) 解答例の誤りについて

原 因		再発防止策(具体的な方法)
①作業における見落としについて	査読・校正の作業方法の見直し	・問題作成者, 査読・校正委員及び特別校正委員の役割分担を明確にし, 役割ごとに別な場所で作業できるような環境をつくる。 ・査読・校正委員及び特別校正委員の意見等は, 問題作成代表者を介して問題作成者で協議し, 意見等への対応を行う。
②時間的な問題について	査読・校正の作業方法の見直し	<ul><li>・各委員が納得できるまで点検を行えるよう、作業を終えた委員の 待機室を設けるなどの環境をつくる。</li><li>・作業時間が短いと指摘があった業務については、作業開始時間を 早める等改善する。</li></ul>
③試験問題及び解答例の確認について	多くの目に触れるような工夫	<ul><li>・試験終了後速やかに採点者へ問題等を配付することとし、万一の誤り等の早期発見を図る。</li><li>・本学ホームページへの試験問題及び解答例の公表を行う。</li><li>・試験終了後は、学外の専門家等による試験問題及び解答例の点検を実施する。</li></ul>
④人選及び入試実施体制について	入試問題に関わる担当者の選出方法の工夫	<ul> <li>・入試問題に関わる担当者を選出する際、専門分野の重複がなく少ない人数でも効率的に作業が行えるような人選を行うために各教員が担当できる科目の専門分野を登録制にする等の仕組みをつくる。</li> <li>・複数のキャンパスからの移動などの負担を軽減するため、専用回線による遠隔会議などについて専門家の意見を聞きながら導入の可能性を探る。</li> <li>・委員の入れ替えの際は、手立てが引き継がれるよう、一部の経験者を残す工夫を行う。</li> <li>・入試に関する貢献度を教員の評価に取り入れることを考慮する。</li> </ul>

### (2) 採点ミスについて

原 因	再発防止策(具体的な方法)	
①問題に対する理解について	採点者が事前に試験問題や解答例 を理解する機会(時間)の確保	・採点者が問題と解答例を十分に理解した上で採点を行うことがで きるよう,試験終了後速やかに採点者へ問題等を配付する。
②人材育成について	教員の資質開発	・新規採用職員研修やFD・SD等において継続して入試について 取り上げる。
③採点の実施方法及び情報共有に ついて	採点の実施方法の見直し	<ul><li>・採点途中での部分点の配点の変更は極力控え、また採点者の疲労を 軽減するために適切に休憩時間を挟んで作業を行うことを徹底す る。</li><li>・採点業務の日数についても再検討を行う。</li><li>・最終的な部分点の配点について必ず記録に残す。</li></ul>
	採点作業を行いやすい解答用紙へ の工夫	・採点者が採点・集計しやすいように、解答用紙の中に小計欄を設 ける等の工夫を行う。
	共通問題を使用する学部間の情報共有	・各学部における採点中の疑義等については、試験実施本部に必ず報告し、問題作成代表者等で対応を協議した上で当該学部以外の学部にも情報提供を行う。 ・ルートを明確にしたフローチャート等を作成し活用する。
<ul><li>④入試実施に係る意見等の集約・ 情報共有について</li></ul>	意見等の集約方法の明確化及び複 数回に分けた集約方法の工夫	・意見等を集約する機会を試験実施直後及び採点業務終了後等,複 数回に分けて行うことで問題点の共有を図る。

# プレス通知資料 (概要)



令和5年(2023年)12月7日 山 形 大 学

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

### 1. 山形大学学生チャレンジプロジェクト 山形リユースプロジェクト

山形大学学生チャレンジプログラムの一環として、山形大学学生(団体名:Team again 代表 影山大輔)が「山形リユースプロジェクト」を開催します。使わなくなった衣服を再利用し、さらに着たい服を手に入れることができるこのプロジェクトは、県内のリユースを加速させ、SDGsに貢献することが期待されます。

日 時:2023年12月15日(金)・16日(土) 11時~16時

場所:山形テルサ 大会議室

公式サイト: https://againchimu.wixsite.com/reuseproject

内 容:着なくなってしまった衣類を持ち寄っていただき、無償にて着たい服を持ち帰って頂きます。

# 2. 「YU-SDGs Award 2023」の受賞案件について~すべての活動を SDGs の枠組みにより empower!~

2021 年に引き続き、SDGs の達成に貢献する優れた教育・研究・学生活動・大学運営等を行っている本学の個人・団体を表彰するとともに今後の活躍が期待できる活動を支援することを目的として「YU-SDGs Award 2023」を実施し、申請件数 18 件の内、7 件を受賞案件として決定しました。

### 3. オペラ指揮者 阪哲朗氏による学生の公開レッスンを行います

山形大学地域教育文化学部では、2017 年度より山形交響楽団との連携による地域創生事業として、公開講座を開催してきました。今回は、オペラ指揮者として活躍する山形交響楽団常任指揮者 阪哲朗氏による、本学学生への公開レッスンを行います。ヨーロッパの歌劇場で活躍し、オペラに深く精通する、同氏のレクチャーをはさみながらの公開レッスンとなります。学生たちにとっては、国際的に活躍するプロの音楽家から直接指導を受けられる絶好の機会です。地域の皆さま方とこの貴重な時間を共有するために、レッスンを公開いたします。

日 時:令和6年1月23日(火) 19:00開演

会 場:山形大学 文化ホール (小白川キャンパス)

入場料:無料 ※後日オンデマンド配信の予定

講師:阪哲朗氏

内 容: 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」を中心に、ドイツの歌劇場の話を交えながらの公開レッスン

### 4. 「ひらめき☆ときめきサイエンス:知的材料ってなに?」開催について

「ひらめき☆ときめきサイエンス:知的材料ってなに?ゆらゆら構造と4Dプリンティングの世界に潜入しよう」を開催します。

日 時:令和6年1月21日(日)10:45~16:45

開催場所:やまがたクリエイティブシティセンター 01

対 象:高校生(15名)

配布先:学長定例記者会見参加報道機関

### PRESS RELEASE



令和5年(2023年)#月#日

### 山形大学チャレンジプロジェクト

## 山形リユースプロジェクト

### 【本件のポイント】

- これにより県内のリユースが加速し、SDGsに貢献できる
- ●現在山形県では衣類の回収を行っていないため衣類のリユースに関するプロジェクトは山形初



●使わなくなった衣服を再利用し、さらに着たい服を手に入れる事ができる

### 【概要】

「山形リユースプロジェクト」

日程:2023年12月15日(金)16日(土)

時間:11時~16時

場所:山形テルサ 大会議室

公式サイト: https://againchimu.wixsite.com/reuseproject

内容:着なくなってしまった衣類を持ち寄っていただき、無償にて着たい服を持ち帰

って頂きます。

### 【背景】

近年ファストファッションの発展や衣服の廉価化により買ってから数回着て捨てる人が急増しており、年一人当たり12枚の衣服を手放すと試算されています。また、年間で50800tもの衣類がゴミに出されています。(数値は環境省HPより引用)

さらに今世界的にリサイクル・リユースが重要視されています。特にリユースについてはリサイクル に比べ資源的に優しいと考えられていますがリユースを行える場というのは中々用意されていないとい う現状があります。(海外支援としてのリユースはありますが国内向けのリユースはほぼなく,現状リ ユースを行うには有料で行うしかありません)

そこで私たちが無料でリユースを行える場を提供したいと考え実施します。

これにより衣類に関するごみの減少につなげられ、環境負荷の軽減に加えSDGsに向けての対策となります。

服の持ち込みをしていただいた方には一般参加の方よりも早く入場できる特典を付ける予定です。

配布先:学長定例記者会見参加報道機関

### 【今後の展望】

来年度も実施したいと考えています。

また、今回以上の規模で行えるよう協力していただける方を探していきたいと考えています。

### 【山形大学学生チャレンジプロジェクトとは】

学生が主体的に活動し、大学や地域との関わりを深める魅力的な企画を募集し、採択された企画に、 予算の範囲内で大学が支援を行うプロジェクトです。

### お問い合わせ

山形大学エンロールメント・マネジメント部学生支援課 齋藤 TEL:023-628-4840 MAIL:yu-gakumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp Team again 代表 影山大輔

イベントHP <a href="https://againchimu.wixsite.com/reuseproject">https://againchimu.wixsite.com/reuseproject</a>

2023 Winter フロジェクト

使わなくなった衣類を 無料で回収し 配布します。 ぜひ気軽に足を運んで みてください!

12月15日金

12月16日

11:00~16:00

無料で参加できます!



子供用から 大人用まで 幅広く配布!



◆場所

山形テルサ 1F 大会議室

990-0828

・金曜日に衣類の回収、土曜日に衣類の回収と配布をします

- ・近隣施設への駐車はご遠慮ください
- ・詳細はホームページでご確認ください

お問い合わせはこちら

againchimu@gmail.com

https://againchimu.wixsite.com/reuseproject

配布先: 学長定例記者会見参加報道機関

### PRESS RELEASE



令和5年(2023年)12月7日

# 「YU-SDGs Award 2023」の受賞案件について

### ~すべての活動をSDGsの枠組みによりempower!~

### 【本件のポイント】

- ●山形大学は昨年の玉手学長の就任以来、すべての活動の推進をSDGsの枠組みによりempower!しています。
- ●2021年に引き続き、SDGsの達成に貢献する優れた教育・研究・学生活動・ 大学運営等を行っている本学の個人・団体を表彰するとともに今後の活躍 が期待できる活動を支援することを目的として「YU-SDGs Award 2023」を 実施し、申請件数18件の内、7件を受賞案件として決定しました。



前回の授賞式の様子

●2023年12月19日(火)11:00に法人本部棟4階第2会議室において表彰式を実施します。 是非、取材願います。

### 【概要】

「YU-SDGs Award」は、YU empowering with SDGs の方針の下、すべての活動を SDGs の枠組みにより empower! する本学において、SDGs の達成に貢献する優れた教育・研究・学生活動・大学運営等を行っている個人・団体を表彰するとともに、今後の活躍が期待できる活動を支援することを目的として実施しています。

なお、表彰は、以下の区分にて実施します。

YU-SDGs Award 大賞: SDGs の達成に貢献した教育・研究・学生活動・大学運営等から最も優れたプロジェクトとして認定されたもの。

YU-SDGs Award 優秀賞: SDGs の達成に貢献した教育・研究・学生活動・大学運営等から優れたプロジェクトとして認定されたもの。

YU-SDGs Award 奨励賞:今後の活動の広がりが期待できるプロジェクトとして認定されたもの。

YU-SDGs Award 特別賞:特筆すべき功績があったと認められるプロジェクトとして認定されたもの。

### 【受賞案件一覧】

- ○YU-SDGs Award 大賞
  - ・持続可能な地域農業に向けて スマート・テロワール発 庄内産小麦プロジェクト 中坪あゆみ(庄内産小麦プロジェクトチーム)
- ○YU-SDGs Award 優秀賞
  - ・草木塔再考 ~草木塔プロジェクトの波及~ 阿部 宇洋 (草木塔プロジェクト)
  - ・生ゴミ→資源化!ヤマダイミズアブ 佐藤 智 (ヤマダイミズアブ)
- ○YU-SDGs Award 奨励賞:
  - ・水の光分解から水素と酸素製造システム 有馬ボシールアハンマド
  - ・入院患者の安全を24時間365日サポートできるシステム―院内急変対応チームのたゆまぬ活動― 鑓水健也(中根正樹・院内急変対応ワーキンググループ)
- ○YU-SDGs Award 特別賞
  - ・「つらい思いをさせないゲノム検査」のために 〜山大ゲノム管理室の挑戦 2nd season 〜 鈴木修平(がんゲノム管理室コアメンバー)
  - ・模擬裁判と SDG s ~社会への問題提起の先にあるものとは~ 山形大学模擬裁判実行委員会 (代表者: 丸田蒼)

取り組み内容の詳細については、問い合わせ先までご連絡ください。

### 問い合わせ先

国立大学法人山形大学

総務部総務課社会共創推進事務室内 YU-SDGs 推進事務室

TEL 023-628-4615

メール yu-sdgs@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先:学長定例記者会見参加報道機関

### PRESS RELEASE



令和5年(2023年)12月7日

### オペラ指揮者 阪哲朗氏による学生の公開レッスンを行います

### 【本件のポイント】

- ●オペラ指揮者として活躍する山形交響楽団常任指揮者 阪哲朗氏による 公開レッスン
- ●2017年度から実施している地域創生事業であり、今回で11回目
- ●世界で活躍するプロの音楽家の指導を間近で感じることのできる 絶好の機会

### 【概要】

山形大学地域教育文化学部では、2017年度より山形交響楽団との連携による地域 創生事業として、公開講座を開催してきました。

今回は、オペラ指揮者として活躍する山形交響楽団常任指揮者 阪哲朗氏による、 本学学生への公開レッスンを行います。

ョーロッパの歌劇場で活躍し、オペラに深く精通する、同氏のレクチャーをはさ みながらの公開レッスンとなります。

学生たちにとっては、国際的に活躍するプロの音楽家から直接指導を受けられる 絶好の機会です。地域の皆さま方とこの貴重な時間を共有するために、レッスン を公開いたします。



講師:阪 哲朗

### 【開催情報】

日 時 令和6年1月23日(火) 19:00開演 会 場 山形大学文化ホール(小白川キャンパス)

入場料 無料

※後日オンデマンド配信の予定

講師 阪哲朗氏

内容 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」を中心に、ドイツの歌劇場の話を交えながらの公開レッスン

<参考> 過去の公開レッスン開催日/講師

令和元年 7月21日/オペラ指揮者 阪 哲朗 氏

令和元年11月19日/チェリスト・指揮者 鈴木 秀美 氏

令和3年11月15日/ピアニスト 舘野 泉氏

令和5年 3月 9日/弦楽四重奏の夕べ(山形交響楽団)

お問い合わせ

学術研究院(地域教育文化学部主担当) 渡辺 修身 TEL 023-628-4336 メール sammy@e.yamagata-u.ac.jp 山形交響楽団

山形交響楽団 との連携による 地域創生 事業

# 了開華区2023~2024

山形大学では2017年より「山形交響楽団との連携による地域創生事業」として公開講座を開催しています。

### 第1回

脇園彩氏(メゾ・ソプラノ)による

# 声楽の公開レッスン

2023 12/15 FRI 【開場】 10:30 【開演】 11:00 【会場】 山形大学文化ホール

【講師プロフィール】

大反響を呼んでいる。

東京藝術大学を経て、イタリアに留学し、ミラノ・スカラ座研修所などで研鑚を積む。2014年ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルで、イタリアでのオペラ・デビューを果たし、以後同国を中心に活動。ミラノ・スカラ座やヴェローナ、ボローニャなど各地の歌劇場に出演している。近年は日本でも活躍の場を広げ、中でも新国立劇場の《セビリアの理髪師》ロジーナ役や《チェネレントラ》タイトルロールは

### 第2回

阪哲朗氏(指揮者)による

# オペラの公開レッスン

第3回

山響メンバーによる

# 弦楽四重奏の夕べ

 $_{2024}\,2/29\,{}_{\mathrm{THU}}$ 

【開場】18:30 【開演】19:00

【会場】山形大学文化ホール

【出演者】犬伏亜里(vn)·堀越瑞生(vn)·成田寬(va)·渡邊研多郎(vc)

【プログラム】

モーツァルト:弦楽四重奏曲 第19番 ハ長調「不協和音」K.465

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調「ラズモフスキー第3番」作品.59-3

2024 1 / 23 TUE 【開場】 18:30 【開演】 19:00 【会場】 山形大学文化ホール

オペラ指揮者として活躍する山形交響楽団常任指揮者 阪哲朗氏による公開レッスンです。今回は歌劇 「ヘンゼルとグレーテル」を中心に、ドイツの 歌劇場の話を交えながら行います。

《入場無料》

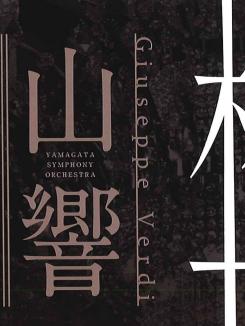
【お問い合わせ】渡辺 修身 研究室

TEL:023-628-4336 Mail:sammy@e.yamagata-u.ac.jp

右記二次元バーコード(下記URL)より公開レッスンの一部をオンデマンド配信予定。

https://www.youtube.com/channel/UCdGGgrz5XgMXik-w8J-kKbQ ※急遽予告なく中止する場合がありますがあらかじめご了承ください。





TA TRAVIATA

オペラ指揮者 阪哲朗が誘う 演奏会形式オペラシリーズ Vol.2

19世紀 舞台は巴里の社交界



ヴィオレッタ 森谷 真理 (ソプラノ) Violetta Valéry : Mari Moriya



宮里 直樹 (テノール)



ジェルモン 大西宇宙(バリトン)



小林 由佳(メゾソブラノ)



ガストン子爵 新海 康仁 (テノール) Gastone: Yasuhito Shinkai



ドゥフォール男爵 河野 鉄平 (バス)



一侯爵 深瀬 廉 (バリトン)



医師グランヴィル 井上 雅人(バリトン)



在原 泉 (アルト)

合唱 山響アマデウスコア Choius: Yamakyo Am



やまぎん県民ホール

TICKET 〈全席指定〉

一般発売 9月28日(木) 鑑賞会員先行発売 9月21日(木) 後人公本が「一次行業院 9月23日(土・祝)

S席:6,000円 A席:5,000円 B席:3,000円

学生S:3,000円\* 学生A:2,500円\* 学生B:1,500円\*

特別学生券 1,000円

山形交響楽団では、もっと気軽に演奏会を楽しんでいただくために、当日券を 販売できる公演に限り、当日の開演10分前より特別学生券を販売いたします。

チケット取扱店

● **チケット ぷあ** (Pコード:230-016)

●八文字屋 Pool ●TENDO 八文字屋 ●辻楽器店 ●富岡本店 ●やまぎん県民ホール ●山響事務局 (やまぎん県民ホール内)

★24歳までの学生の方 (購入の際は学生証が必要です) ※小学生以上の方がご入場 いただけます。

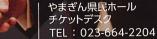
山響WEBチケットでの オンライン購入は こちらから

CONTACT 山響チケットサービス

(山響事務局内) TEL: 023-616-6607

https://p-ticket.jp/yamakyo

[月~金 ※祝日を除く 10:00~17:00]



ヴェルディ:歌劇「椿姫」(演奏会形式)

※やむを得ない事情により、出演者等が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

★全3幕/日本語字幕付き原語(イタリア語)上演 Giuseppe Verdi: La Traviata (Concert Style)

[ 休館日、年末年始を除く10:00~19:00 ] https://yamagata-bunka.jp/ticket

チケットのお申込み・お問合せ



肾阪

### 〈会館常設の託児室をご利用いただけます〉

料金/1時間500円 \*\*チケットの半券提示で500円割引 対象年齢/生後6ヶ月~就学前まで

PROGRAM

やまぎん県民ホール(TEL: 023-624-2220)にご予約ください。(11月1日(水)より受付/先着類)



主催:公益社団法人 山形交響楽協会 共催:山形県総合文化芸術館 指定管理者 みんぐるやまがた・山形県 後援:山形市・山形県教育委員会・山形市教育委員会

特別協賛:山形新聞・山形放送

助成:文化庁 文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) 独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人 三菱 UFJ 信託芸術文化財団 公益財団法人 朝日新聞文化財団



### Story

舞台はパリ、高級娼婦ヴィオレッタの館では華やかな宴が催されている。青年アルフレードの純粋 な愛に心惹かれるヴィオレッタ。その後、社交界を離れ、二人はパリ郊外の家で静かに幸せに暮ら していたが、アルフレードの父ジェルモンに息子と別れるよう迫られ、ヴィオレッタは悲しみの中で 別れを決意する。何も知らないアルフレードは、彼女の裏切りに怒り、絶望。社交界に戻ったヴィオレッ タを大勢の前で侮辱して悲しませるのだった。数か月後、病気が悪化し死期が迫ったヴィオレッタの もとにアルフレードが駆けつけるが…。

### 森谷 真理 (ソプラノ) ヴィオレッタ

ニューヨークのマネス音楽院修了。メトロポリタン歌劇場にて2006年に《魔笛》夜 の女王で大成功を収めたのをはじめ、リンツ州立劇場の専属歌手を務め、近年で はドイツのザクセン州立歌劇場で《蝶々夫人》に主演。国内外の著名指揮者および 主要オーケストラとの共演も多い。2019年には「天皇陛下御即位を祝う国民祭 典」にて国歌独唱を務めた。名古屋音楽大学准教授、東京藝術大学講師、洗足学園 音楽大学講師。

https://marimoriya.com/

### 宮里 直樹 (テノール)

東京藝術大学首席卒業、同大学院修了後、ウィーン国立音楽大学にて研鑽を積む。 第48回日伊声楽コンコルソ第1位、第28回アジア国際音楽コンサートにて金賞、テ ノール特別賞受賞。日生劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ルチア』エドガルド、二期会 『蝶々夫人』ピンカートン、『ファルスタッフ』フェントン、東京芸術劇場『放蕩息子』ア ザエル、『椿姫』アルフレード、新国立劇場『ばらの騎士』テノール歌手、宮崎国際音楽 祭『仮面舞踏会』リッカルド等輝かしい美声で幅広く活躍している。二期会会員

### ジェルモン 大西 宇宙 (バットン)

ジュリアード音楽院卒。シカゴ・リリック歌劇場で研鑚。『エフゲニー・オネーギン』で 日本オペラ・デビュー後、国内外にて『フィデリオ』『リナルド』『ローエングリン』『ニュ ルンベルクのマイスタージンガー」「愛の妙薬」「電話」「カルメン」「道化師」「トゥーラ ンドット』「椿姫」 「ラ・ボエーム」等に出演。2023年佐渡裕プロデュースオペラ 「ドン・ ジョヴァンニ』にてタイトルロールを務め好評を博す。オーケストラのレパートリーは バロックから現代作品まで幅広い。五島記念文化賞オペラ新人賞、日本製鉄音楽賞 フレッシュアーティスト賞。CD「詩人の恋」(ピアノ:小林道夫)をBRAVO RECORDSよりリリース。

### 小林 由佳 (メゾソプラノ)

国立音楽大学卒業。同大学院および二期会オペラ研修所修了。文化庁在外研修員 としてイタリアにて研鑚を積む。二期会『ナクソス島のアリアドネ』作曲家での華や かな舞台姿と音楽性が評価され、以後二期会『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エル ヴィーラ、『イドメネオ』イダマンテ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、新国立劇場『夏の 夜の夢』ヒポリタ、『ホフマン物語』ミューズ/ニクラウス等出演。2022年には新 国立劇場、山形交響楽団と続けて『ばらの騎士』オクタヴィアンで出演し好評を博 した。二期会会員

### 新海 康仁 (テノール) ガストン子爵

東京藝術大学卒業、同大学院および二期会オペラ研修所修了。文化庁在外研修員と して渡伊。2012年『スペイン時間』 ゴンサルヴェで二期会デビュー。以後、二期会「ト リスタンとイゾルデ』『サロメ』『パルジファル』、東京芸術劇場『こうもり』、日生劇場 『ルサルカ』「魔笛』の他、『仮面舞踏会』リッカルド、『セヴィリアの理髪師』アルマ ヴィーヴァ伯爵、『ラ・ボエーム』ロドルフォ等出演。近年では二期会『ジャンニ・スキッ キ』リヌッチョ、『トゥーランドット』ポン等で好評を博している。二期会会員

### 「ドゥフォール男爵」河野 鉄平 (バス)

クリーヴランド音楽院、同大学院修了。シカゴ芸術大学およびシカゴ・オペラ・シア ター研修プログラム修了。アメリカで23年間を過ごし、帰国後は小澤征爾音楽塾 やセイジ・オザワ松本フェスティバル等に出演。近年新国立劇場での活躍も目覚ま しく、2020年『夏の夜の夢』のパックで急遽出演以降、22年は『さまよえるオラン ダ人』オランダ人、「魔笛」ザラストロ、「ペレアスとメリザンド」医師/羊飼い、「ボリ ス・ゴドゥノフ』ヴァルラーム、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長に出演、好評を博した。二 期会会員

### ドビニー侯爵 】深瀬廉(バリトン)

山形市出身。東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了、ベルリン芸術大学大学院 オペラ科並びにLOK科修了。第29回ラインスベルク国際声楽コンクール入賞、第 91回日本音楽コンクール声楽部門第2位など各賞受賞。平成29年度文化庁新進芸 術家海外研修制度研修生、2016・2018年度RMF奨学生。国内外にてオペラ『ドン・ ジョヴァンニ」標題役、「スペインの時」「ラミーロなど、演奏会でフォーレー『レクイエ ム』、ベートーヴェン『第九』などのソリストを務める。現在、山形大学講師。

### 医師グランヴィル 井上 雅人 (バリトン)

山形北高音楽科卒業。東京藝術大学大学院及び二期会オペラ研修所修了(最優秀 賞/川崎靜子賞)。フィンランドにて学ぶ。若杉弘指揮『コジ・ファン・トゥッテ』 グリエ ルモで本格的オペラデビュー後、「フィガロの結婚」「マクベス」「シモン・ボッカネグ ラ』各タイトルロール、『魔笛』パパゲーノ、『椿姫』ジェルモン、「トスカ」スカルピア、 『マダム・サン=ジェーヌ』ナポレオン、デュトワ指揮『サロメ』等で活躍。2010年上 海万博「世紀のコンサート」第九、「メサイア」 「レクイエム」 等でソリストを務める。 二期会会員

### 在原 泉 (アルト)

弘前大学教育学部音楽科を経て、岩手大学大学院修士課程修了。大仙市大曲新人 コンクール、東京国際声楽コンクールにおいて上位入賞を果たす。山響創立40周年 記念歌劇「さまよえるオランダ人」マリーでデビュー。以降、「ヘンゼルとグレーテル」 ヘンゼル・魔女、「魔笛」侍女、「こうもり」オルロフスキーと幅広い役柄を演じ、表現 力に富んだ声で聴衆を魅了している。また、バッハのカンタータなどの宗教曲や ベートーヴェン「第九」のソリストとしても、数々の著名な指揮者、オーケストラと 共演している。

### 阪 哲朗 指揮

京都市出身。京都市立芸術大学作曲専修を卒業後に渡欧。ウィーン国立音大指揮科 在学中にビール歌劇場専属指揮者となり、これまでに、アイゼナハ歌劇場音楽総監 督、山形交響楽団首席客演指揮者、レーゲンスブルク歌劇場音楽総監督を歴任。現 在、山形交響楽団常任指揮者、びわ湖ホール芸術監督、京都市立芸術大学音楽学部 指揮専攻教授。山形大学での公開講座や東京芸術大学、国立音楽大学より特別招 聘教授として招かれるなど、後進の指導にも力を注いでいる。第44回ブザンソン国 際指揮者コンクール優勝。

### 山響アマデウスコア

音楽監督に佐々木正利・岩手大学名誉教授、指揮者に渡辺修身・山形大学教授を迎 え、山形交響楽団のモーツァルト交響曲全曲演奏会「アマデウスへの旅」シリーズに 出演することを目的に2008年結成。以来、同交響楽団附属の合唱団として、モー ツァルトに留まらないオペラやミサ曲、オラトリオなど数々の合唱付きの大曲を演奏 し、県内外から高い評価を得ている。2023年7月には、合唱団創立15周年を記念し て単独の特別演奏会を開催し好評を博した。

### 山形交響楽団 管弦楽

1972年東北初のプロ・オーケストラとして誕生。東京・大阪での「さくらんぼコン サート」など年間150 回の公演を実施。2007年~2015年「アマデウスへの旅」 (モーツァルト交響曲全曲演奏会)を開催。2008年アカデミー賞映画「おくりびと」に 出演。2020年6月より「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」で新たな魅力を発信して いる。常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、ミュージック・パートナー ラ デク・バボラーク、創立名誉指揮者 村川千秋、桂冠指揮者 飯森範親。 https://www.yamakyo.or.jp/

クラシック専門 ライブストリーミングプラットフォーム

ライブストリーミングブラットフォーム ではない CURTAIN CALL 首気な



山形交響楽団公式 YouTubeチャンネル



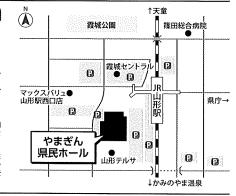
### 会場 やまぎん 県民ホール

JR山形駅 徒歩1分

山形県山形市双葉町1-2-38 TEL: 023-664-2220

駐車場が大変混み合います。時間 に余裕を持ってご来場くださいますようお願いいたします。

※やまぎん県民ホールには無料駐車場がございませんので、近隣の 有料駐車場または公共交通機関を



ISPS日本学術振興会

### 小・中・高校生のためのプログラム

本プログラムはJSPS科研費JP23HT0020の助成を受けたものです。







4Dプリンティングとは「3Dプリンティング+時間」と表すことができ、 3D形成技術に「時間軸」を加えた新しいものづくりの領域です。 時間軸を加えるには化学と機械の2つのアプローチが存在します。 本プログラムでは、化学アプローチとして3Dゲルプリンターの体験を、 機械アプローチとしてゆらゆら3Dボードゲームの構造開発を体験し、 未来のものづくり "4Dプリンティングの可能性"を一緒に考えましょう。



# やまがたクリエイティブシティセンター Q1 〒990-0043 山形県山形市本町1-5-19 (山形市立第一小学校旧校舎)



### 高校生(15名)



参加

申

込

申込締切 2023年12月11日(月)

※当プログラムは先着順にて受付を行います。 ※参加にあたっては保護者の同意が必要です。



### 本プログラムの研究内容は研究室WEBサイト



### 当日のスケジュール

受付を済ませ、10:45までに会場にお集まりください。 ※筆記用具をご持参ください。

10:45~11:00 受付、開場(やまがたクリエイティブシティセンター Q1 に集合)

11:00~11:15 開講式(挨拶、オリエンテーション、科研費の紹介)

11:15~11:30 講義「ゲルって何?知的材料って? 4D ゲルプリンターとは一体?」

実習「ゆらゆら3D ボードゲームなど」 11:30~12:15

12:15~13:15

13:15~13:30 講義「研究者の横顔~ソフトマシンDOJO を紹介」

13:30~13:45

大学生と歓談 13:45~14:45

実習「やわらか材料で4次元のカタチをつくろう!」(発表準備) 14:45~15:45

発表会「どんなカタチをつくりましたか?」 15:45~16:00

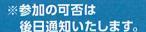
16:00~16:15 アンケート記入

16:15~16:45 修了式(未来博士号授与)、解散

### ■ ホームページからお申し込みください

https://www.jsps.go.jp/hirameki/06 sanka.html

※「(1)Webから申し込む場合」の手順に沿って、申し込みをしてください。



お問合わせ先

### 山形大学米沢キャンパス研究支援課

〒992-8510 山形県米沢市城南四丁目3-16

TEL.0238-26-3004 E-mail: yu-koukenkyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



